

# 扁桃膿栓症・扁桃肥大のラジオ波凝固治療について 笠井耳鼻咽喉科クリニック

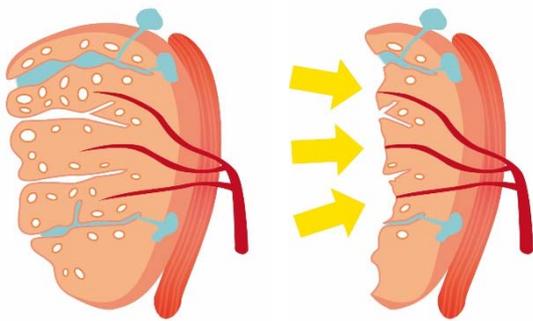
口蓋扁桃の陰窩に形成される膿栓は、それ自体に病的な意味は殆どありませんが、口臭や咽頭異物感の原因となるために、治療を希望されることがあります。扁桃膿栓症の保存的治療としては、陰窩洗浄や吸引などの「扁桃処置」が行われます。しかし、扁桃処置は一時的に膿栓を除去することは出来ませんが、根本的な治療法ではなく、繰り返し行う必要があります。また、咽頭反射が強い方では実施するのが困難です。

一方、扁桃膿栓症ということで扁桃摘出手術を希望しても、その病状だけでは手術適応は無いと診断されて、実施していただける医療機関は少ないのが現状です。このような状況を考慮して、当院では扁桃膿栓症と扁桃肥大に対する外来日帰り手術として、Celon, Coblator, Ellman 等のラジオ波凝固治療機器を使った「扁桃のラジオ波凝固手術」を行っています。



**【ラジオ波凝固手術】**  
扁桃肥大と扁桃膿栓症に対する口蓋扁桃のラジオ波凝固治療の模式図。右口蓋扁桃に針電極を刺入し、通電することで扁桃の凝固縮小を図る。

【扁桃肥大と膿栓症のラジオ波手術前後】



口蓋扁桃全体が縮小し、扁桃の陰窩（腺窩）が浅く、小さくなり、膿栓や膿汁の貯留が少なくなる。完全に扁桃がなくなるわけではない。

## 【治療の流れ】

### ＜局所麻酔＞

麻酔液による「のど」の表面麻酔と扁桃の局所注射麻酔を行います。まず、咽頭反射を抑えるためにキシロカインビスカスによる「うがい」をします。うがい麻酔によって咽頭反射が十分に抑制された後、扁桃にキシロカイン注射液による浸潤麻酔を行います。

### ＜凝固手術＞

扁桃に針電極を刺入し、通電することによってラジオ波凝固治療を行います。扁桃全体を縮小させることで陰窩のくぼみを浅くし、陰窩の開口部を広げて膿栓が溜まりにくい状態を目指します。手術時間は20分程度です。

### 【手術後の注意点】

術後、出血や浮腫が無いことを確認してから帰宅して頂きます。術後安静度や出血を避けるための食事の注意等、術後の諸注意については別紙において説明致します。術後の痛みについては、最初の1~2日間に痛みが強い場合があります。この痛みへの対処および感染予防と炎症を抑えるために、5日間の抗生剤と消炎鎮痛剤、ステロイド等を処方しています。

### 【治療経過】

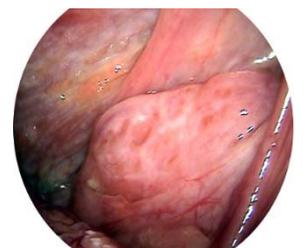


**【手術直後の右口蓋扁桃】**  
口蓋扁桃と扁桃周囲粘膜を熱凝固治療することで、扁桃実質が縮小し、扁桃窩が開放されて、膿栓の貯留が減少する。



【術後1カ月の右扁桃】

【未治療の左扁桃】



縮小した右扁桃と開放された扁桃窩。反対側の左扁桃は一月以上、間を置いて手術を考慮する。